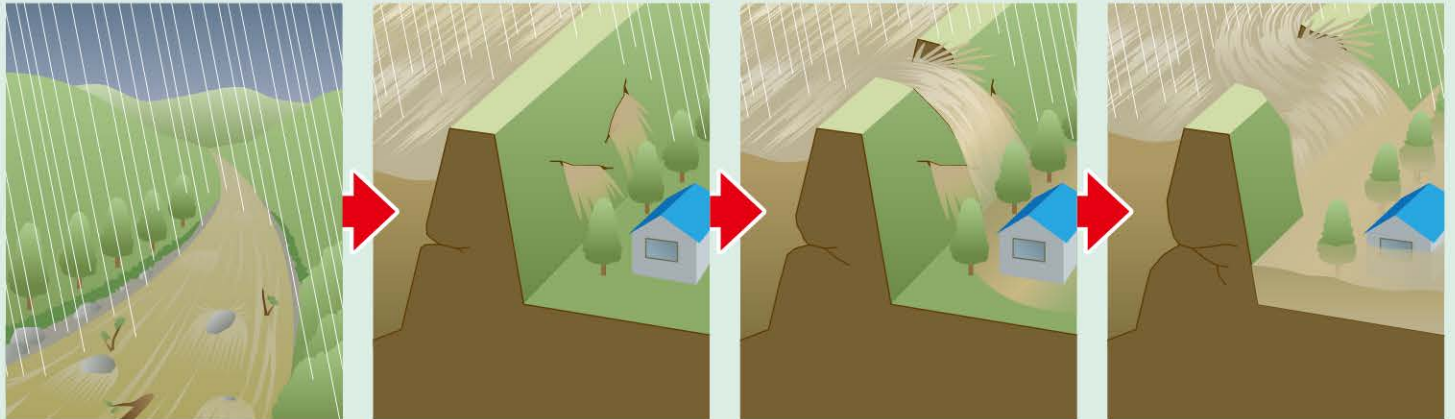


# 洪水から身を守るために

## ● 洪水(外水氾濫)発生メカニズム

洪水(外水氾濫)は大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。



大雨によって川の水が増え、水かさ上がり始めます。

堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の圧力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた場所は一気に広がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

## ● 雨の強さと降り方、災害発生の目安

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	10~20mm未満	20~30mm未満	30~50mm未満	50~80mm未満	80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返りで足もとがぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

## ● 命を守る行動について

災害時の避難において最も重要なことは、「安全な場所」に「早めに避難」することです。危険な場所にいる人は、立退き避難（水平避難）を基本としますが、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な屋外への避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、近くの頑丈な建物の2階以上や自宅の上階といった高い場所へ移動（垂直避難）して救助を待つという判断も必要です。



例えば次のような場合屋外への移動は危険です

**屋内安全確保を行ってください**

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している（50cm以上）。
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。



浸水等による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅・施設等の浸水しない上階への移動や、上層階に留まる（待避）ようにしてください。

## ● 避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



### 避難は早めに

なるべく周囲が浸水する前に地域で声をかけ合って避難しましょう。市からの指示があれば素早く避難しましょう。



### 動きやすい服装で

荷物は最小限にして背負い、両手が使えるようにしましょう。長靴は水が入って動きにくくなるので、運動靴で避難しましょう。



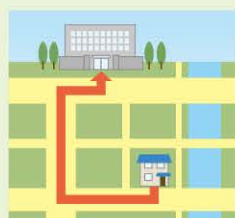
### 足元に注意

浸水により足下が見えにくくなることで、道路と側溝や水路等の区別がつかなくなります。長い棒などで深い場所がないか安全を確認しながら歩きましょう。



### 車での避難は控えて

車は浸水でエンジンが止まったり水没したりする危険があります。車で避難するのなら浸水前に。浸水している場合は、徒歩で避難しましょう。



### 河川などに近づかない

増水した河川などの様子を見に行くのはやめましょう。避難先への経路は、川べり、アンダーパスなどはさげ、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



### 無理はしない

浸水時に歩ける深さは膝くらいまで。水深20cmくらいでも流れが速い場合は危険を伴います。避難が遅れたら高い場所で助けを待ちましょう。